地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より法人としての運営理念を掲げている。昨年度の外部評価を受け、今年より法人理念の実現へ向け事業所独自の指針を定め文章化した。	○	地域密着型のホームであることを認識し、そのもとにサービスの展開を行っていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に職員間でミーティングや勉強会を開催し、理念の共有・実践に向け取り組んでいる。	○	新入・異動・出向受入れ職員に対しても運営理念を伝え、共有化を図っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営理念は玄関先に掲示し、家族、来客者に見ていただけるようにしている。	○	理念をただ掲示するだけでなく、職員側から声を掛け、理解してもらえるよう取り組んでいきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常に職員からの挨拶を心掛け、会話を少しでも出来る様にしている。また、少しずつではあるが、ホーム敷地外への散歩等も増やしている。	○	もっと隣近所の人々の参加していただけるような行事、声掛け等を工夫していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、彼岸市等へ積極的に参加し、ホームの事を町内の人へ知って頂く機会も増やしている。また、家族の会へも継続して参加している。	○	近隣住民への広報誌配布を継続して行っていきたい。
	○事業所の力を活かした地域貢献			

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「障害老人を支える家族の会」で職員側の体験談等話す機会をもらい、積極的に発言するよう努めている。	○	「障害老人を支える家族の会」へ参加し、認知症の方を抱える家族の悩みや不安、葛藤など本当に生の声を聞かせて頂いている。継続して会に参加できるようにしたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ミーティングにおいて評価の意義を確認しながら自己評価を行っている。外部評価の結果についても再度ミーティングにて話し合い、次のステップへつながるよう取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、民生委員・総合福祉課担当者・家族会代表者・広域連合の方など交え連絡協議会として開催している。参加者の方より多くのアドバイスをいただき日々のサービス向上へつなげている。	○	今年、介護保険者による実地指導を受け、連絡協議会の場においてホーム入退居者・現入居者のおおまかな状態報告を行なうこととなった。今後も続けていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議における町担当者さんとの関わりや、介護相談員さんの来苑時に情報交換を行い連携に努めている。	○	職員の方から遠慮なく何でも尋ねる事ができればと思う。そしていろいろとアドバイスを頂きサービスの質の向上につながればと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	各種研修会において権利擁護や成年後見人制度について学ぶ機会はあるが、一部の職員にとどまっている。	○	研修会のみでなく、資格取得学習の際にも触れてはいるが、正しい理解、活用につなげる為にも、研修会後の内部伝達等を通じより多くの職員が理解できるよう努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入所の際や伝達講習会等において虐待がないよう教育を受けている他、スタッフルームへ張り紙をしたり、マニュアルを読んで理解に努めるなど虐待防止を心掛けている。		
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書を基に説明し、ホームにおける生活状況についても、実際見学をして頂くなどし、疑問点も尋ねている。　今年はホームから離れている事務所と契約、入所に際して再度連携確認を実施した。		ホームにて契約を行う場合と、離れた事務所で契約を行う場合があり、利用者さん及び家族さんがどちらへ来所されても支障をきたさないよう今後も連携を図っていきたいと思う。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者を主とし、普段の会話の中でも不満や苦情を尋ね、運営に反映できるように取組んでいる。また、広域連合相談員さんの日2回の来苑は利用者さんが外部者の意見を表せる機会となっている。	○	意見、苦情、不満等があっても中には遠慮されたり、思いを表すことが難しい方もおられるので職員がいかに利用者の思いを汲み取ることができるかが課題である。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一度の文書での報告にて、利用者様の状況や金銭管理状況、職員の異動を報告している。また、3ヶ月に一度「なごみ便り」を発行し生活状況をお知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情に際し受付窓口の案内を玄関に掲示し、毎月の近況報告書でも苦情受付の案内を行っている他、サービス担当者絵会議の場においても意見を伺い反映できるよう努めている。	○	家族会やサービス担当者会議の場を活かし、家族さんも意見を言いやすい場を作っていかなければならないと思う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に開くミーティングの他、常時、運営者、管理者は意見や提案を受け付け関係者と協議し、反映できる体制を整えている。	○	意見・提案を受け付けているだけでなく職員の個別面接等機会を設けより多くの意見・提案が運営に反映されるよう努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者さんの生活生活の流れに沿って、必要な時間帯に必要な職員が確保できるよう職員間で話し合いが行われている他、運営者・事務所から勤務体制に関して意見が寄せられている。	○	H19.3月の大幅な勤務形態変更後、約1年半が経過するが、今後も利用者さんの状況等に応じた勤務調整を検討していく必要があると感じている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、休職等あったが、都度、利用者さんへの説明を行う他、家族さんへも異動等の旨を近況報告書へ書き添えるなどし、理解していただけるよう努めている。	○	系列の特養との相互研修をH18.11月より実施しており、今までは特用の職員を受け入れるのみであったが、今年度よりホームからの出向も実施した。 相互研修受入れは当ホーム利用者にも好評であり、現在は中断しているが、今後も実施できればと思う。
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内研修の他、当ホームにおいて年間研修計画を立案し、職員が順に外部研修へ参加している。研修後は、職員ミーティングの場にて報告、伝達している。	○	系列の特養との相互研修により違う環境で働きながら主に介護技術や新しい知識を学ぶことができていると思う。
	○同業者との交流を通じた向上			

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
20	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が主催する年1回の相互研修会の他、外部研修へ参加することで同業者とのネットワークづくりに取り組んでいる。	○	研修会等を通して出会う同業者とのつながりを大切にし、連絡を取り合いながら相互訪問などへ発展することができればと思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々に抱える悩みやストレスを職員同士が気兼ねなく話せるような環境であることを目指している。 また、職員親睦会による食事会や研修旅行などの場がストレス軽減につながっている。	○	職員の休憩場所は主にスタッフルームであるが、入居者さんも利用する場であるので、職員の落ち着ける環境を作る事ができればと思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定例ミーティング等を通じ運営者と職員が適宜話し合い、意見交換を行う他、運営者から管理者、職員へのアドバイスの場でもあり、sっ更なる向上を目指す機会となっている。	○	職員個々に利用者さんの対する想いは強くなってきていると思うが、更なるケアを行っていく為に介護技術や知識を高め自己のスキルアップと併せて取り組むことができればと思う。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに、ホーム管理者、ケアマネージャーと併設施設の生活相談員で本人様の所へ出向きアセスメントを実施する他、事前ホーム見学の際にも職員と話し合い信頼関係の構築に努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家人様との情報交換もしっかり行い、日常より支援内容・相談等にも耳を傾けるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に対し、ホーム内において回答出来る範囲で伝え、ホーム職員では不明な件は、系列施設の相談員へ連絡を取り対応している。	○	相談援助実務経験職員が少なく、まだ未熟であり、多くの職員は相談援助技術を学んでおらず、系列施設との連携を図りながらホーム職員が学んでいかなければならない。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規での申込みの方にはホームの見学を勧め、案内、説明を行いながら場の雰囲気等を感じたり、サービスについて理解して頂けるよう努めている。	○	利用に際し安心し納得して頂けるまで何度でも相談や見学に来て頂けるような環境作り、働きかけができたらと思う。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者様にサービスを提供させて頂いている気持ちを忘れず、利用者様と共に過ごし、学び、そして支えあう姿勢であるよう心掛けている。今年度「理念実現に向けた指針」にも明記した。	○	系列施設との合同ミーティングなどの場においても利用者様がいての私達であることを皆で再認識している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	緊急時の連絡をしっかりし、面会時の時などは、家族様に利用者様のちょっとした出来事などでも報告するようにしています。	○	家族様参加型の行事を増やし、家族様も訪問しやすいホームとし、利用者様との大切なひとときを過ごして頂けるようなホームにして行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	コミュニケーションが困難になっていく利用者様や、認知症の進行中の利用者様などでも、家族様との関係を大切とし、少しでも長くより良い関係が続くよう努めている。	○	利用者様の状況等、家人様へ説明し、少しでも多く理解していただき、1つ1つの出来事を共に喜び、利用者様にも家族様にも共に励みとなっていくような支援に努めたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様個々の馴染みの場所や人との関係は面会者や偶然出会った時のみになっている。	○	家人様の協力も経て、自宅や馴染みの場所の訪問等が少しづつ増えて行くようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様一人ひとりの他入居者様との関係を理解し、職員が間に入り和を保つように心掛けている。	○	軽度者と重度者との関係がなかなか埋まらないが、少しづつでも利用者様同士の会話が増えていくよう支援したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設施設へ転所となった利用者様やサービス利用が終了した利用者様とも、面会や病院受診で出会った際にも積極的にコミュニケーションを図っている。	○	併設施設へは、気分転換がてら面接支援等行っている。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
	○思いや意向の把握			

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
33	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、ケアプラン作成時に、各担当者ごとに利用者様や御家族様の希望を聞き、ケアプラン等に取り入れている。希望があれば、その都度、対応している。	○	食事制限や体重増加予防に対する制限のある利用者様への対応で、もっと利用者様と制限内で行えるケアをしっかり考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握できている方もおられるが、漠然とした経過や記録書による把握だけの方もおられるのが現状である。	○	各担当者を中心として把握に努め、職員間で共有し、利用者様の望む暮らしへのお手伝いが少しでもできるようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各担当スタッフごとに、短期間でのアセスメント表などの見直し作成を行い、日々の過ごし方など現状を把握して行うようにしています。	○	暮らしの視点が利用者様の視点となるよう、全職員で心掛けて行きたい。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりに担当があり、本人様や家族等と事前に話しをし、介護計画の作成にあたっている。また、カンファレンスにも家人様、本人様の参加の上、意見、アイデアを取り入れている。	○	不参加の家族様にも事前に連絡をし、意見や要望を取り入れている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画で設定した期間での見直しは行っているが、変化に伴う計画の変更が不十分であり、月１回はモニタリング実施記録時計画変更の必要性を確認し、必要であれば見直し等、実施する事を職員周知したが、変化に追いついていないのが現状である。	○	介護計画に関して事業所内での学習の他、今後法人研修も予定されており、介護計画の必要性を認識しながら計画作成見直しに取り組みたいと思っています。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にその日の出来事や様子などを、食事、排泄、入浴、バイタルの記録等と併せて記入している。 受診（往診）やリハビリ、特変事項等、医療面については別冊の介護日誌に記入し情報共有している。	○	昨年より申し送り時間の短縮化（直接介護業務時間への充当）を実施しており、記録の重要性が更に高まったと感じている。　記録漏れをしないことを第一に、日々の様子、気付き等記録の残し、介護計画策定へつなげる流れをもっと確立していかなければと思う。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームと同法人の特養ホーム、居宅介護支援事業所や系列の老人保健施設、病院と連携をとり、協力をいただいている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム近くに警察、消防があり、連絡体制を整えている他、ボランティアの受入れや役場、老人クラブとも連携をとっており、協力をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人様の状況、要望に応じて、同法人、系列施設とまずは連携を取り合い、必要と思われるサービスへとつなぐことができるよう、支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設の居宅介護支援事業所との連携が中心になりがちであり、地域包括支援センターとの関わりが、まめに取れていないのが状況である。	○	入居者様の意向、必要性に応じて、いち早く地域包括支援センターと協働できる様、日頃からもっと関わりを持つようにしていきたいと思っています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に併設の医療機関での受診や往診であるが、本人さんの希望に応じて、他の医療機関であっても受診出来る様、体制を整えている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	普段は、かかりつけ医の他、併設病院の脳内神経科に受診へ行ったり、相談したりしているが、必要に応じて、大規模病院の専門医を訪ね診療を依頼している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設病院の看護職員と毎日連絡をとり、利用者さんの健康管理に携わっていただき、協力を得ている。困った事等あれば、すぐに連絡を取り、相談に乗ってもらっている。	○	当ホームに看護職員の配置がなく、健康管理の面で不安を抱えている現状もあり、併設病院の看護師さんに指導を頂いている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	併設の病院へ利用者さんが入院された際は、情報交換を密に行う事が出来るが、それ以外の医療機関へ入院された際は、併設病院の主治医を通じて情報を収集したり、家族さんへ連絡をとる等している。	○	利用者さんが入院された際、職員が自主的にお見舞いとして入院先に行っており、その際、病院関係者との情報交換に努めているが、ホームとして医療機関との連携をこれからも構築していかなければと思う。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人さんや家族さんとの話し合いを基に、重度化や終末期への対応について、主治医他、関係者から意見を頂きながらスタッフ間で方針を共有し取り組んでいる。	○	重度化や終末期への対応については内外での研修等においても学ぶ機会があるが、スタッフ個々の意識そしてチームでのケア向上へと発展していけるよう取り組みたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者さんの状態が重度化されたり、終末期を迎えられた際、当ホームを退居し、医療機関へ転院されるケースが多く、重度化や終末期への対応については備えている状態である。	○	いつ利用者さんに変化がおこりうるかはわからないので、すぐにホームにおいても対応が行える様、主治医との連携を中心に、体制を整えておきたいと考えている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今年度もホームを退居し住み替えられるケースがあったが、本人さん、家族さん、ケアマネージャー等と話し合いや情報交換を行い極力不安など解消できるように努めた。	○	住み替えの際、他関係機関（施設等）との連携の重要さを感じた。本人さんが安心して住み替えできるサポートが行えるよう今後も体制を整えておきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人策定の個人情報保護マニュアルを基に記録等取り扱いに注意を払っている。 プライバシーに関しても言葉掛け、対応など、職員同士声を掛け合い損ねることのないようにしている。	○	利用者さんに対し、人生の先輩として尊敬する気持ちを持って接する事を心掛けている。新入職員のみならず全職員が意識し、今後も言葉掛け、対応には十分気をつけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段の関わりから思いや希望を汲みとるように心掛け、希望を表す事が困難な方であっても日頃から表情など観察し受け止められるよう努めている。自己決定面に際してもゆっくり説明し、理解・納得していただけるよう促している。	○	モニタリングにおいても希望をうかがい記録しているが、利用者さんの思いや希望を実際どこまで反映させることができるのか職員（各担当者）の課題でもある。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんへ今日１日の予定（入浴や病院受診など）を話題にし、また、利用者さんの都合も確認。外出など希望があればなるべく添えるよう努めている。	○	個別、少人数での外出支援（買い物など）が以前より増えつつあり、希望にも応じているが、反面、職員が手薄になる為ホームにおられる利用者さんへの関わり、支援が課題と感じている。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現状では、本人の望む店へ行けている方は少なく、併設の特養へ月1回訪問される散髪に行かれる方が多数おられる。しかし、出来る限り髪形や回数等は本人の希望に沿ったものとなるようにしている。	○	家族様行きつけの理容・美容室の協力のもと、慣れしたみのある所へ行けるように協力していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様、職員と同じ食事を摂ることで食事中に出来る限り好み等知る機会となっているが、片付けに関し職員側が中心となっているのが現状である。	○	毎食厨房より配食されている為、調理機会が少なく、栄養士と相談しレクリエーション的な物で調理機会等の増加に取り組んでいる。また、畑にあるもの等での調理回数を増やしているところである。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事制限等により、全てが本人の望む形で支援はできていないものの、その都度希望や要望に耳を傾け、栄養士の助言をもらいながら対応している。	○	制限のある利用者様に対し、医師や栄養士としっかり話し合い、出来る限り本人様の望む支援へ近づくよう努めたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンの把握に努め、日中のみでも布パンツを使用するなど、おむつの使用率減少を心掛けている。	○	現在では排泄パターンの把握について職員によっての差があり、統一されていない部分があるので、職員間での情報共有、統一支援に努めたいです。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日については、職員側や行事等の都合で決めてしまっているのが現状であるが、時間帯や順番等は利用者の希望に沿ってその都度対応に努めている。	○	冬季は夜間浴希望等対応しているが、特定の利用者様に限られているので、もっと入浴時間が楽しめるような支援を行っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者さんのペースやその日の体調などに応じて適宜休憩を取っていただいている。昼夜共に各居室へ訪ね、室温確認・換気等の他、言葉掛けを行い安心して気持ちよく過ごして頂けるよう努めている。	○	過度な休息または休息の不足にならないよう、日課活動と休憩の区切りをつけ、生活リズムを保っていただける支援を行っていきたい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事を毎朝夕（主に夏季）される方、畑でとれた野菜で調理をしてくださる方、近隣スーパーへよく買い物に出かけられる方など一人ひとり違いがあり、全体としても外気浴・散歩・ドライブ等実施し気分転換の場となっている。	○	自立されている方だけでなく、意思の表出が困難な方に対しても日々の関わりやアセスメント等を通じて役割や楽しみごとを見出し生活の質の向上へとつなげたい。
	○お金の所持や使うことの支援			

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
60	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態によって家族様と話し合い、お金の管理、買い物外出を行っている。管理が無理な利用者様にも希望の物を買いに出かける為、苑でお預かりする場合もある。	○	金銭管理に際し、家族さんに送る近況報告書へ残金を明記したり、面会時に使用状況を説明し残金が少なくなれば入金をお願いしている。今後も適切な管理を継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑外への散歩・外出など家族様にも協力頂いてご希望に添える様、調整している。	○	なるべく一人1人の希望に応じ、戸外への外出支援を実施しているが、事業所内に残っておられる方への影響がないよう配慮していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	苑企画の外出の他にも利用者様の希望によってドライブしたり、家族様に希望の旨お伝えして、日程調整、準備のお手伝いをします。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑内に公衆電話を2台設置し、いつでも使えます。 手紙等の郵便物は届き次第利用者様にお渡しし、状態によっては朗読、返事の代筆もお手伝いします。電話は居室にもあり、希望時に取り次ぎます。	○	年賀状や暑中見舞いなど季節の便りを出す事で季節を感じたり家族を思い出すキッカケ作りにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	季節ごとの行事には家族さんへも参加を呼びかけ利用者さんとの関わりが保たれるよう促している。知人、友人等の面会もあるので、再び来苑していただけるよう声掛けなどを行っている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	主に外部研修にて学ぶ機会を持ち、研修参加した職員が事業所内にて伝達し全ての職員が理解するよう、また、身体拘束をしないケアへ取り組んでいる。	○	事例は無いが、緊急やむを得ない状況に遭遇した場合など全ての職員が適切に対応できるよう手続き等把握しておかなければならないと思う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は安全の為に施錠しているが、日中は玄関正門共に開放しており自由に出入り可能となっている。居室入り口の施錠は昼夜共に行っていない。		
	○利用者の安全確認	日中は日課の家内・言葉かけ、見除等の為夜間は状態確認		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
67	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は日課の案内・言葉かけ、掃除等の為夜間は状態確認の為、適宜訪室している。 ホーム内だけでなく、畑仕事や苑外の散歩を行われる方もおられ、見守り、付き添いにより安全へ配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・塩素系漂白剤など多くの人が使用するものに関しては職員が確認・管理を行い、各個人で使用されている物に関しては言葉掛けにより安全を呼びかけた上でなるべく本人管理するようにしている。	○	居室にて（おおむね自立されておられる方が）かみそりを使用中に手を切傷されるというケースがあったが今後も注意の必要な物品使用に際して安全を呼びかけ危険防止に努めたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	参考書を読んだり、職員ミーティングにより事故防止へ向け学んだり話し合いを行っている。利用者一人ひとりの状態に応じた対応、主に危険予測の面で改善が必要と思う。	○	事故発生後、再発予防の面では取り組みができていると思うが、予防策の面では今後も取り組みが必要と感じる。事例検討など増やしていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	併設の病院と連携しており、緊急時は主治医指示の下、対応を行っている。職員研修により応急手当、初期対応等学ぶ機会があるが、定期的ではない現状である。	○	急変時対応マニュアルを基に、各利用者の担当職員が起こりうる危険について学ぶ機会を持ったが、今後も全ての職員が対応できるよう訓練など取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練実施の他、法人での緊急時応援体制、連絡体制がり、また、スタッフルームに災害対応に関する掲示を行っている。	○	今年度より、洪水警報、土砂災害警戒警報発令時への対応訓練を実施しました。今後、地域の方々にも協力をしていただけるよう、働きかけをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	サービス担当者会議の場を主に、リスクについて面会時などでも家族様と話し合いを行い、利用者様自身の状態を踏まえた対応を行っている。	○	家族さんへの説明、話し合いを行うにあたり、まずは職員が利用者に起こり得るリスクをとらえ認識しておかなければならない。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の関わりや様子観察の他、利用者さん自身からの訴えにより体調変化に気付いた際は、併設病院へ相談の他、介護日誌へ記入し対応、情報の共有に努めている。	○	小さな変化にも気付き当事者職員より情報が発せられることは多いが、全職員への共有に至らない事があり、情報管理・伝達をきちんと行っていきたい。
	○服薬支援	病院、薬の処方依頼を行う際は、処方箋を確認、受診（往		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
74	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院へ薬の処方依頼を行う際は、処方箋を確認、受診（往診）時には職員が付き添い、服薬に関する指導を一緒に受けている他、服薬による症状変化の確認結果等記録伝達し、服薬支援、理解に努めている。	○	併設病院協力の下、服薬管理も以前より徹底して行われるようになってきたが、今後も服薬支援に際し、全職員の把握・共有化を行っていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時の牛乳を冷たい物にしたり、個人的にカスピ海ヨーグルトを作るなど摂取面での工夫や、毎日の散歩、外気浴、体操により身体を動かす機会を作るなど取り組んでいる。	○	予防や対応を行うも排便が見られない時は、坐薬、浣腸を使用しているが、いずれにしても排便の有無確認（主治医指示の下）浣腸の実施など確実に行っていかなければならない。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを実施している。協力歯科医院の往診も多くあり、利用者さんのみならず、職員も口腔ケアに関しての相談を行っている。	○	歯磨き、うがい、一連の動作を自ら行われる方に対しての磨き残しの確認や口腔内観察ももっと行っていきたいと思っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランスは系列法人の管理栄養士が主となり厨房にて管理されている。水分量もこまめに言葉掛けを行い摂取を促している。食事、水分量は都度記録し、状態がわかるようにしている。	○	水分量が不足しがちな方もおられる状況であり、関係者と話し合い、改善へ努めている。特に夏季は脱水症等へ留意し、水分摂取を大事にしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染対策委員会を設置し、併設施設と連携し、月に1回はミーティングを実施している他、主治医からも適宜指導があり、感染症に関する法人内講習も開かれている。	○	インフルエンザ、ノロウィルス等、急速に感染拡大を招くものは特に危機意識を持ち予防に努めていかなければと思う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内のチェック（施設、個人用共に）や家族さんからの差し入れに際しても確認（場合により管理）をお願いする他調理器具も使用後は速やかに洗浄するなど食中毒予防に努めている。	○	畑でとれた野菜を調理したり、月に1度は調理レクリエーションを行っているが、衛生面・安全面を第一にし取り組んでいきたい。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの玄関は雨天時を除き、全開しており誰でも自由に出入りができるようにしている。外玄関まわりには、季節の花を植え、咲かせ、畑にも野菜を植え、家庭的な自然とのふれあいを目にする事ができる。	○	ホームの外玄関は、ちょっとしたスペースがあり、テーブル、イスを持ち出し、日光浴、お茶会、雑談する場所、保育所の子供たちの散歩の立ち寄りによる地域との交流の場にもなっている。　このスペースをもっともっと活用し親しみやすい場とし、出入りができるようにしようと思う。
	○居心地のよい共用空間づくり			

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間等には季節の花などを生けたりと季節感や生活感を出すよう工夫しているが、浴室やトイレ等では、介護施設感が出ている所が多いのが現状である。	○	浴室やトイレ等をもう少し工夫を重ねて、普通の家のような生活感を取り入れていけたらと思う。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子の配置に配慮し、独りになる場所が居室だけにならないよう工夫したり、気の合う利用者様同士が集いやすいよう工夫している。	○	現在、畳使用している所がないので、少し横になりたい利用者様が自然と横になれるような空間作りを進めていきたいと思う。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等の持ち込みは少ないが、小物類に関しては家人様に持ち込み頂くか、本人様と共に買い物へ出掛け選んで頂く等に努めている。	○	大きな家具等が難しい現状の中でも、出来る限り使い慣れた物の持込や好みの物の持ち込みの声掛けをしっかりと行いたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	出来る限り、自然の空気を取り入れる様に努め、個別の要望にもその都度対応している。	○	温度差を感じにくくなっている利用者様や、訴えをなかなか口に出せない利用者様にもしっかり声掛けを行い、訴えや要望に答えれるように努めたい。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレには多くの手すりが設置してあり、活用、ホーム内に段差はなく、安全に移動する事が可能である。床も転倒によるダメージを和らげられるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食堂では、物の位置等では混乱される利用者様もおられ、自立して暮らせる状況でないのが現状である。	○	利用者様一人ひとりが自立に向けて生活出来るような環境作りを工夫していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室前のスペースは、利用者様の庭として花を育てたり、草抜きをされたり、好みに合った使い方をお勧めしている。リビングに続くウッドデッキでは犬を飼っており、皆、可愛がっている。	○	季節ごとにそれぞれのベランダに草花が咲き、季節をさらに感じて頂ける様、活用出来たらと考えます。

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私をはじめ、スタッフ一同は、認知症の方への対応等、まだまだ勉強不足で入居者の方へも迷惑をお掛けしていると思います。そんな中でもアピール出来る点と言えば、自然に囲まれたホームであり、庭、畑、鯉の住む池等がある事です。近くの野山では、季節毎に山菜も採れ、四季を感じる事ができます。畑には、入居者の方と一緒に作った野菜があり、皆で収穫を喜んで頂いています。中庭の鯉のエサやりや、ホームで飼っている犬のエサやりを入居者の方がされ、生き物とのふれあいもあります。また、近くに花回廊があり、季節毎の花を楽しんで頂いています。立地条件は、とても良いと思います。これを充分に生かしていく様、スタッフ一同、日々頑張っていきたいと考えています。